

KITAOSAKA

ワンワン 11月1日は「犬の日」

犬との関わりを見つめ直しませんか

漫画「動物のお医者さん」でシベリアンハスキー犬がブームを呼び、今はゴールデンレトリバー犬が人気という「ペットブーム」。
でもこのブームの陰で、泣く犬も増えているとか。11月1日は「犬の日(ワンワンデー)」。犬と人間のかわりを見つめ直してみませんか。

盲導犬をもっと受け入れる社会に

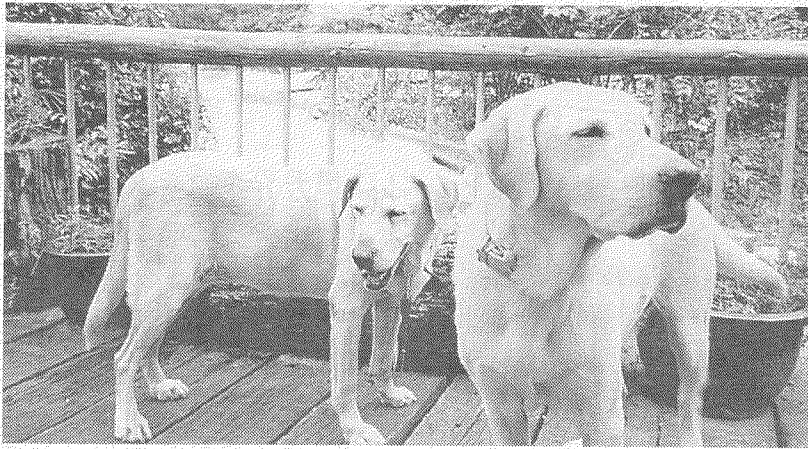
おおさか盲導犬を育てる会(吹田市)

今月から、視覚障害者が盲導犬や白い杖と一緒に、大阪府議会を傍聴できるようになりました。

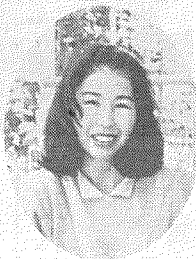
でも、盲導犬の立ち入りができるホテルやコンサートホール、レストランなどの施設はまだ数少ないのが実情。「おおさか盲導犬を育てる会」(会長＝西本志津子さん・写真・吹田市津雲台)は、まず盲導犬を受け入れる環境づくりを、と呼びかけています。

西本さんは「盲導犬を運んだ視覚障害者を特別扱いしない体制を整えていきたい。また、1人でも多く盲導犬を持てるように和歌山の訓練所を応援しており、4月にはチャリティーコンサート収益金を届けました。実際に犬に触れて、知識を得てもらう機会づくりを考えています」。

リタイアした盲導犬、ジミーとジュン。櫻木さん宅にいます。



盲導犬は「伏せ、の姿勢で待つことが多いため、前足のヒジの裏側はスリッパ、毛が抜けた状態に



役を退かざるをえなくなりますが、リタイア犬や訓練を受けて不適格だった犬の存在は、あまり知られていません。各訓練所に、里帰りすることが多いのですが、同会では、一般からの引き取り手を探しています。



エリザベス・オリバーさん

メンバーの櫻木淑恵さん(吹田市山田東)も、現在2匹の世話をしています。

「現役のうちには走れないので、生まれて初めて走れた時のうれしそうな表情が忘れられません。老犬なので、長くは暮らせませんが、何ものにも代えがたいものを家族に与えてくれていました」と話しています。

※「おおさか盲導犬を育てる会」の問い合わせは、06(877-4766)へ。

望まれない生命ふやさないで

アーク

(アニマル・リフュージ・カンサイ)

「動物保護法でも、繁殖を目的としない場合は去勢・避妊することが定められています。単純計算すると、1匹の犬を避妊しないなら数年間で数万匹に。かわいそうだからと手術しないことが、結局不幸な動物を増やすことになるんですよ」。

約1000匹の動物の費用や世話話は、オリバーさんの私財や一般からの寄付、イギリスの動物福祉協会からの援助やボランティアでまかなっていますが、いまでも「引き取ってくれ」という問い合わせが1日平均5件も。

「積極的に救いの手を差し伸べてほしい。動物を大切に思う気持ち、人間に対する思いやりの気持ちにもつながるのです」とオリバーさん。

※アークに関する問い合わせは、0727(37)0712へ。

能勢町に住む大阪工業大学講師のエリザベス・オリバーさんは、捨て犬・猫に心を痛め、2年前にアーク(ARK)アニマル・リフュージ・カンサイを設立。捨て犬・猫に避妊・去勢手術をして保護し、引き取り手を探す活動をしています。

また動物虐待に対して行政に訴えたり、英語と日本語で年4回「アーク」(再生紙使用)を発行し、飼いのアドバイスやネットワーキングをしています。